

株式市場 鳥瞰

二〇〇〇年 最後の大相場

21世紀に利食う株 ガス抜き暴落大歓迎

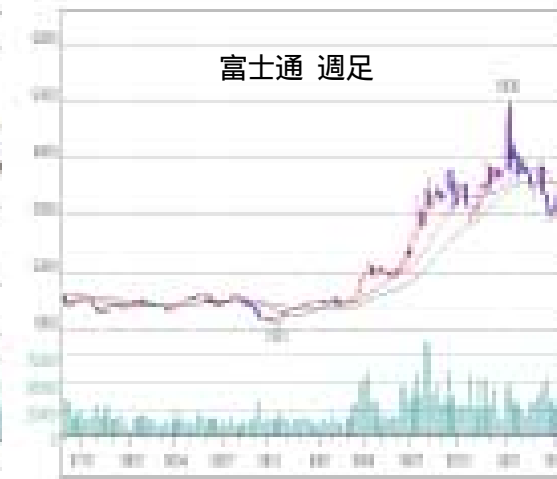
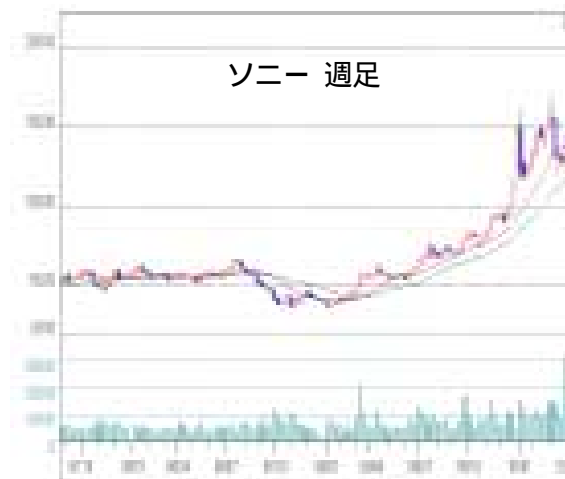
昨年末より暴落を囁かれていたニューヨーク株式市場だが、この4月には、やっと暴落を現実させガス抜きを終了した。一方の東京市場では、その暴落もさほどの懸念材料とはせずに、堅調さをアピールしてきた。

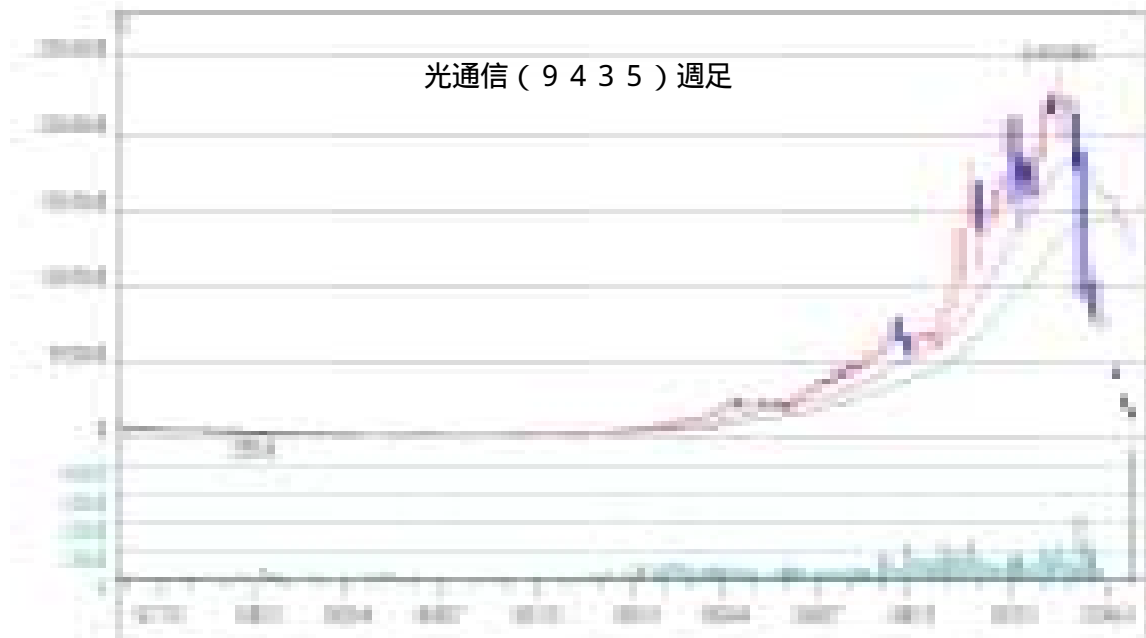
昨秋から先行してきた「ひかりもの」と呼ばれる先端技術の通信関係株。とりわけインターネット関連と称される銘柄群が、バブル化して異常に買い上げられたための反動暴落なのだが、市場全体が長年派手に買い上げられ続け疲弊しているニューヨーク市場とは異なり、東京市場は、余裕そのものだ。



それでも4月のゴールデンウィーク前は、週末、月末などの要因が重なり、ポジションの手仕舞い先行相場となった。積極的な買いも無く、日経平均、TOPIXは、もみ合いで終了。終値は18000円の大台を割り込んだが、これは特に悪材料が出たわけでもなく、断続的なポジションの整理売りとなつたため、値崩れとなった。

4月28日は大引け間際、主力銘柄の富士通(6702)、ソニー(6758)などの決算速報がQUICK画面に流された。さっそくこれを材料にディーラーなどの買い仕掛けの動きも見られたが、主力株への注目度の低い相場のため、追随買いは入らず、ソニーを手掛けたディーラー達も、買いが続かないことですぐに手仕舞ってきていたようだ。





暴落以来、久々に取引時間内に通常
取引が成立した光通信(9435)だが、
ストップ安で寄り付き、ストップ高まで
上昇する荒い値動きで市場を沸かせた。
ただ一足先に反発に転じたソフトバンク
(9984)は、反発初日にストップ安で
寄り付き、その後ストップ高で大引けを
迎えていたのだが、ソフトバンクと比較

すると、初日の段階で大量の売りが出
ており、逃げの勢力の方が強いことがう
かがわれる。目先の勝利の女神は一先ず
「利食い群」に微笑むようだ。

強く暴落のあおりをくらった光通信株
だが、前場から値がついた28日は、活
発な売買となった。だが、流れは個別材
料株に注目が移っており、ソフトバンク



も加えた、目先筋の売り買いで荒い値動
きに終始した連休前相場だった。

ゴールデンウィークの谷間の5月1
日、2日は閑散様子見相場で、暴落やバ
ブルと騒がれる通信系の主力株より、個
別材料株の売買が中心。連休が明け
れば、いずれ通信系の主力株、特に光通信
やソフトバンクどなの「思惑バブル系銘
柄」が様々な思惑で活発に売買すること

になるだろう。こうした銘柄群は、何度
となく相場に大きな影響をもち続けるこ
とになるはずである。

今ではインターネット取引口座を開
設すれば、わずかな維持費で、少額取引
しかできない個人投資家でも、QUICK
の決算速報までもが、自宅や簡単に安価
な通信端末を使って、タイムリーに確認



することさえ難しくない。最新の株価チャートを確認することすらできる。ますますインターネット環境が整備されつつあり、インターネット取引はなくてはならないものになって行くであろう。

インターネット証券会社ばかりではない。少額決済のネット専業銀行「イーバンク」が来年初頭の開業へ向け準備を始

めたりしている。

米国では「児童オンラインプライバシー保護法」が4月21日に施行されたりと、材料豊富な通信系新技術株は、従来の社会システムを大変革させることになる。こんな大変革銘柄群が相場の主役であり続けることに不思議はないと、市場は感じているようだが…。